

第4回ワークショップの結果概要（案）

【課題解決の諸方策】

■ 諸方策の考え方

- 類似の施設が近接して複数存在すると無駄になってしまうので、市や地区での全体の施設配置の状況を踏まえて方策を考えてほしい。
- 利用率などの数値に基づいて施設を整理することは財政負担を軽減するために重要だということは理解できるが、今ある施設の機能はどれも地域にとって必要なものであることを考慮し、これまでの経緯や使われ方などを踏まえて検討を進めてほしい。

■ 既存施設の機能維持・向上

- 各小学校の体育館や運動場は、引き続きサッカー、野球、バレーなどの様々なスポーツ活動に使えるように機能を維持してほしい。
- 西小学校の体育館など、まだ新しく、耐震工事などの補強もした施設は、その投資が無駄にならないように継続して使用するのが良い。地域に開放すればより有効に活用できる。
- 小学校跡地の校舎やグラウンドは手を加えずそのまま利用できると良いと思うが、中学生仕様にするための改修などのために新たな費用がかかるのではという懸念がある。
- 中学生が使える体育館やグラウンドは現状でもスペースが足りないが、小学校と統合すると更に足りなくなることが心配なので、閉校後の小学校の体育館をいわば「サブ体育館」として使うことで十分な規模を確保できると良い。
- 潟東樋口記念美術館や潟東歴史民族資料館などで保管している貴重な資料を他の施設に移行すると、移行先の施設で資料の状態を保つための空調管理などのコストが増えてしまうので、現状の施設を維持した方が良いのではないか。

■ 複合化・多機能化による機能強化

- 既存施設を複合化する際には、子どもから大人まで幅広い年代層の居場所と交流の場になる様な機能を持たせ、人材と郷土愛を育てるコミュニティのための場づくりをしてほしい。
- 利便性の高い潟東出張所の空きスペースを活用し、他の施設の機能を移行して複合化すれば、空間の有効活用になるとともに人が集まりにぎわう場になるのではないか。

- 施設の複合化に伴って駐車場が足りなくなることがない様に配慮してほしい。
- 新たな施設による機能の強化・活性化
- 西小学校跡地と近接するサルビアパークの周辺は一体的に整備し、サッカーをはじめとするスポーツ機能、生活体験館が担っている機能、宿泊機能などを集約して、地域活性化につなげたい。
 - 地域を活性化するには住民が増えることが重要なので、空く土地があるのなら住宅地にしてはどうか。
 - 地区内で農業体験や研修をしている人がいるので、東小学校の跡地などに農業体験施設や宿泊施設を作り活動が広げられる様にできると良い。
- 施設ごとの特色づけ
- 3つの小学校跡地ではそれぞれスポーツ、福祉などの特色を持たせた整備をし、役割分担ができると良い。
- 機能集約
- 単独の施設の複合化だけでなく、複数の機能を集約してエリアを一体的に整備できると魅力が増し、集客力が生まれるのではないかな。
 - 機能が集約されたエリアを作る際には、幹線道路から近いなどアクセスの良い場所を選ぶことが重要だ。
- 施設の転用・売却
- 類似、関連機能と複合することで、使い勝手や利用率の向上につながるとともに、維持管理の負担も減ると思うので、潟東農村環境改善センターやかたひがし生活体験館の機能を空きスペースのある出張所や西小学校跡地に移行してはどうか。
 - 潟東農村環境改善センターのテニスコートや土地改良事務所などの利用率が低い、利用されていない施設は、売却したり転用したりするのが良い。
 - 土地が低く水害の心配のある東小学校周辺は調整池に、騒音の苦情がある東公園は住宅にという様に、用途に適さない施設は転用することを考える必要があるのではないかな。
- 段階的な整備
- 既存施設の機能を移行して複合、集約する際には、新しいものができるまでの空

白の期間が出ない様に、今の施設は維持しつつ新しい施設の整備を進めてほしい。

- 小学校跡地の教室をそのまま空けておくのはもったいないし、建物は使わないと老朽化してしまうので、地域貢献、社会貢献的な機能を持った施設として暫定的にでも利用してはどうか。
- 西小学校周辺は潟東地区のモデルケースとして一体的に整備し、それをきっかけに他のエリアにも波及させていきたい。

■施設の管理・運営

- 子どもや高齢者料金、地区外利用者料金など、属性によって利用料金の設定を変えることを検討してほしい。
- 潟東ゆう学館の機能訓練室など、スペースが空いていても利用の規制があって使えない施設があるので、規制を緩和してほしい。
- 同じ料金ならより設備の整った、インストラクターのいる施設に行くのが当然のことなので、不公平感をなくし、利用率を向上させるために、利用料金が同じ施設の設備や人員は公平に整えてほしい。

【コンセプト】

■地区のアイデンティティを活かす

- 潟東のアイデンティティ（地区固有の特徴）である農業や、農を活かすということコンセプトに含めてはどうか。
- 潟東地域の大きな魅力である「かもねぎまつり」や「どろんこカップ」の今以上の盛り上がりや、遠方からの来客にもつながるようにしてはどうか。

■多世代交流型の施設

- 多世代の「居場所づくり」や「交流の場」、また、「学びの場」を設けてはどうか。
- 学童保育事業所と高齢者施設（居宅介護支援事業所）を同居させるなど、多世代の交流をキーワードに盛り込んでどうか。
- 子どもや乳幼児がいる家族、大人、高齢者など多世代が集まりお互いの顔を見えるよう、多様な機能同じ拠点に集めて交流を活発化してはどうか。

■既存施設の有効活用

- 規則のために使われていない空間や施設を有効活用することをコンセプトに盛り込みたい。
- 小学校跡地では、建物、グラウンド、体育館などの既存施設をそのまま活用しな

から、他の機能を持たせてはどうか。

■ 地区外からの集客

- 既存施設の再利用にこだわらず、新たな施設を小学校跡地に整備してでも地区外から集客することを重視することが地区の活性化にとって重要。

■ 地域のための施設整備

- 湯東地区の子どもや地域のために、地域の方にとっての使いやすさを大切にすべきではないか。

■ アクセシ性を重視

- 自家用車を持たない世代や家庭でも、各公共施設に全ての人がアクセスできることが重要。

【その他】

■ 小学校の跡地活用

- 統合で閉校となる小学校は、使用しないと傷むので、使い方を早急に決める必要がある。
- 廃校になる小学校のライフラインが、今年の4月1日に止められてしまうことを本日の説明で初めて知ったが、ライフラインが止められて使用できなくなるのであれば、跡地利用の検討をしても無駄ではないのか。

■ 避難所機能の維持

- 現在、組織を立ち上げて災害時に小学校をどのように運営していくのか等の話し合いを進めているところである。各小学校の避難所指定を解除することには納得ができない。部署間に連携をうまくとって欲しい。
- 5年ほど前に、「小学校は閉校になったとしても避難所としては使い続ける」といった説明があったが、今日の説明と矛盾しており、疑問を感じる。

■ 質問・情報提供

- 新小・中学校のイメージがわからないため、小・中一貫校の事例を知りたい。